

優しさが連鎖する社会

(原文)

藤本 祥太郎 (14 歳)

広島県

広島なぎさ中学校

あなたが考える優しさとは何かという問いに対して、僕はすぐにこれだという答えが見つかりませんでした。そこで僕は、優しいをテーマにした曲を調べてみました。元々、歌に興味がなかったせい、あまりピンとくる曲がありませんでした。次に、優しい人の特徴を調べてみました。僕の優しい友達 O 君と S 君です。O 君は、プラス思考で、優柔不断の人が嫌いです。S 君は、聞き上手で、自分は自分なんだという意思を強く持っています。この二人に共通している事は、周りの事が見えて、先の事を考えて人と接しているという事と、心の芯が強いという事です。O 君の場合はヤクルトファンで、家族や仲のいい友達がカープファンでも絶対にヤクルトが一番といつも言っています。又、S 君の場合は荒野行動というゲームに一年半近くはまっています。僕は野球が大好きなので、「パワプロ面白いよ、プロスピやればいいのに。」といつも電車でするのですが、やめません。僕たちの学校ではブームが半年前に終わったのにまだやるのかと、びっくりするくらいです。だから二人ともクラスの雰囲気になされる事がなく、流されやすい僕と比べると真反対の性格なので懂れています。つまり、この二人が優しい理由は、自分は自分という考えを強く持っていて、無理に他人と合わせようとしません。僕は他人に合わせて相手を楽しめたら良いと、自分の考えをグッと押し殺すことが多いです。しかし、他人に合わせているという事は、自分が合わせれば相手がいい気になるだろうと相手を見下していることになりま。それは優しさでも何でもなく、他人がいい気持ちになるのは、自分が同感したからただ優越感を得るための行動に過ぎないと思います。相手に気を遣うことなく接してあげるのが、真の友情、真の優しさだとちゃんと O 君と S 君はわかっています。この優しさは、僕にかけているものです。僕たちにはこの二人とは違う優しさを持った K 君という友達があります。その友達は、小学校時代ひどいじめを受けて、その人たちとは離れて楽しい学校生活を送りたいという思いで、大好きだった水泳をやめ、なぎさに入るために一生懸命勉強したんだと僕に話してくれました。その友達はいじめによって、強く優しい心を手に入れました。その友達が僕にいじめの話をしてくれた時に言ってくれた言葉があります。それは、「僕がいじめられることで、誰かがいじめられないなら僕は辛いけど頑張れる。」という言葉を見たとき、涙が出そうになりました。いろんな感情が心の中で入り混じり、K 君を抱きしめたくなりました。K 君は僕や友達に対して、嫌われるかもしれないのに悪いことをしていると注意します。「どうして注意出来るの」と勇気を出して K 君に聞くと「その人の為になるから。」と言われま

した。思わず僕は「嫌われるかもと思わないの。」と聞きました。すると、K君は、「一度人生のどん底を見ると嫌われてもいいと思う。それがその人の為になるのなら嫌われても注意するのが友達だと思う。なんでも言い合えるのが、真の友情、真の優しさだと僕は思うんだ。」と言われました。K君は、見返りや損得など考えずに、相手のためになる行動こそが真の優しさだとわかっています。僕もそのことを小さい時から母に何度も言われているけれどもなかなか行動に移せません。

僕は優しさにあふれる社会を作るには、見返りや損得などを考えずに、相手の為になる行動を取ること、相手に気を遣うことなく接することが第一歩だと思います。そして、僕のように、人から学んだ優しさを自分のものにしたいと思い、行動を改めていく人が増えていくと優しい社会は実現されると思います。優しい社会は作るのではなく、優しさが連鎖し、自然とできていくものだと思えます。